

産業技術大学院大学 のICT環境の運用と 課題

産業技術大学院大学

中鉢 欣秀・小山 裕司・石島 辰太郎

産業技術大学院大学

- 産業技術大学院大学

Advanced Institute of Industrial Technology

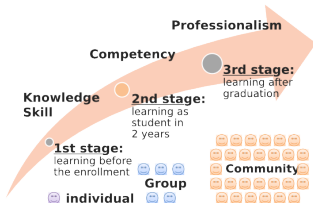
- 2つの専攻
 - 2006年 情報アーキテクチャ専攻 設置
 - 2008年 創造技術専攻 設置

た専門職大学院（公立）

養成するとともに，常に新鮮な知識を提供することで継続

3段階の教育機会

Three Stages of Learning



通常の大学院との違い

社会人学生が多い

- ・ 業務経験を有するものが多い
- ・ 高い職業意識

年齢層が幅広い

- ・ 20歳台後半から60歳台まで（30歳台が多い）

社会人の割合と年齢

専攻全体（2011年度）

- ・ 約60%が社会人，平均年齢は 33.2歳
情報アーキテクチャ専攻
- ・ 約90%が社会人，平均年齢は36.2歳

社会人のための学修環境

単位バンク制度

科目等履修生として履修した分の授業料が入学後に返還

履修証明プログラム

- ・ 短期間で専門分野の学修ができる

遠隔授業

一部の授業は秋葉原サテライトキャンパスでも受講可能

科目等履修生（単位バンク制度）

通常の学生の定員

- ・ 1, 2年次を合計して200名

科目等履修生の人数

- ・ 平成21年度 68名、平成22年度 72名
平成23年度 51名

単位バンク制度の利用者数

- ・平成22年度 20名、平成23年度 21名

約3.5科目（最高10科目）を事前に履修してから本学

PBL(Project Based Learning)

PBL (Project Based Learning)

- ・実践的な業務遂行能力を育成できる

PBLの実施

- ・修士課程の2年生を対象とし、期間は1年間
- ・グループワークを主体としたチーム活動

本学における課題

社会人を中心とした学生のニーズに耐えられる教育の提供
・ 時間的に距離のある対象者に対しても教育を行うための
教育システムを活用した教育用のインフラストラクチャーの

通常の講義を支援するシステム

本学では2年間の通学により修士号を取得できる

- ・通信制大学ではない

授業では教員・学生間あるいは学生相互の議論・意見交換を重視する

クを多く取り入れており、学生間のコネクション構築(

しかし，社会人学生は大学での学修のため
潤沢に時間を使うことが難しい

- ・ オンラインを活用する

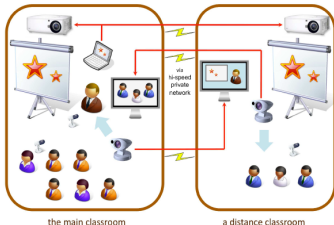
授業動画コンテンツ配信システム

欠席した授業の動画を見ることができる

- ・ 出席した授業の復習にも利用できる
- 修了生も閲覧可能

卒業後10年間、無料で本システムにアクセスすることがで

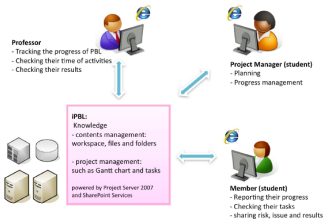
サテライトキャンパス



学生による授業評価システム

活動の一環として、学生による授業評価を実施できるシステム
生していた人手による評価結果の集計作業をなくすること

PBLを支援するシステム



iPBLの機能-1

プロジェクトマネジメント

- WBS（Work Breakdown Structure）によりプロジェクトの進捗管理を行うことができるシステム
プロジェクトワークスペース
プロジェクトの成果物（ファイル）を共有するためのワークスペース

iPBLの機能-2

週報システム

活動状況を教員に報告するためのフォームを自動で生成
セルフアセスメントシステム

期末に、自身の学修を振り返るための評価シートを生成
成績評価システム

プロジェクトを担当する全教員が学生の成績を入力するシ

PBLのためのその他のシステム

プロジェクト配属システム

- ・ 学生が履修したいプロジェクトを選択するシステム
- どのようなメンバーが居るのかを確認しながら，プロジェクト

情報システム全般に関する

多様な制度に対応する情報システムの運用

進化した学生が修士課程に入学した場合、新たなアカウント
情報システムのユーザが多様であること

に関して高度な要求をする学生から、ITリテラシーに乏

今後導入するシステム

学生のカルテ・ポートフォリオ

- ・ 多様な学生の学習状況を把握できるカルテシステム
- ・ 学外での成果物のアピールを支援するポートフォリオシステム
- ・ 入学前，修了後における大学と社会人との
コネクション維持
- ・ FacebookやTwitterといったソーシャルメディアの積極的な活用

PBL用インフラストラクチャ の改善

iPBLのリプレイス

MS SharePointをベースとした現状のシステムには不満
が多い

ソフトウェア開発プロジェクトに対応する
より高度な機能

プロジェクトに向けたソースコードのバージョン管理システム
かわる、バーンダウンチャートをもちいたアジャイル開発

おわりに

学における継続的な専門職教育の取り組みと、それを支
ながら、これらの改善作業に取り組み、そこで得られた

ご清聴ありがとうございました

- ・ 中鉢 欣秀 yc@aiit.ac.jp